

## 小羊学園東日本大震災復興支援プロジェクトにあたって

支援センターわかぎ アカシア棟主任 鈴木圭子

3月11日。あの日、あの時、私は翌日のさをり織りのワークショップの準備に追われていた。廊下に掲示物を貼り終え戻ると、会議中だったはずの職員が次々と会議室から走り出てくる姿が見えた。年度末だというのにまだ翌年度の体制が固まっておらず、時間内に終わるのかと心配されていたのに、いつもより早く終わったのを不思議に思い聞くと、地震があり会議を中断したと知らされた。夜勤明けの午後で、フラフラになりながらの準備だったので、揺れには全く気が付かなかったが、プレハブの会議室はかなり揺れたらしい。

しばらくして、宮城で甚大な被害があったということを知った。私は青森の大学出身なので、東北地方の友人・知人も多い。「宮城か……。〇〇ちゃん、〇〇ちゃん大丈夫かな？」とは、思ったものの、まだまだ遙か遠くの出来事としか感じていなかった。

しかし、家に帰りTVで映像を見て絶句した。そこには本吉郡南三陸町の様子が映っていた。友人の家は本吉郡志津川町。そして勤務先は志津川町役場の福祉課。「志津川支所」の文字を見て、もしやと思い調べ市町村合併で南三陸町になったということが分かった途端、血の気が引き、その瞬間から、他人事でなくなった。

いつか起きるであろう東海大震災。静岡にも浜岡原発がある。我が家は海の前。まさに明日は我が身……

そんな思いもあり、今回のプロジェクトの話聞き、是非参加させていただきたいと思った。しかし、今年度は社会福祉士の実習指導担当ということもあり難しいとのことなので、あきらめていたのだが、法人内の職員のみなさんのご協力おかげで、こうして派遣させていただくことができていることに感謝の気持ちでいっぱいである。

南相馬に来て早くも10日が経った。微力だが、ピーンズのみなさんのお役に立てるよう、そして、帰った際には、この貴重な経験を法人のみなさんに伝えていけるように、残りの日々を過ごしていきたい。

8月26日(日) 24時間テレビを見ながら…